

共同実施事業に係る経費削減の取組について

V2予算編成におけるコスト削減の主な取組

- 7回の予算会議で全F Aの事業を精査
 - 総長を含めた経営層で予算案について議論
 - 他方、競技会場の追加のようなコスト増要因も議論

 - 外部コンサルを活用したC V Eによる仮設整備費等の見直し
 - コスト改善提案 (Value Engineering) による見直し
 - 前提となる条件 (Condition)の聖域なき見直し

 - I O C ・ I P Cに対し2 5のコスト削減項目を提案
 - 関係者との調整・議論
- 採用できる項目についてV 2 予算案に反映
- 12月下旬のV 2 公表に向けて、都・国等と調整中

会場整備コスト最適化の取組

大会経験のあるコストコンサルのサポートも受けながら、適正な会場整備コストの検討を実施

① 主要オーバーレイ資材の単価の精査

- ・ 国内外のサプライヤーに対して見積もり調査を行い、内容を精査。

② コンディション&バリューエンジニアリングの取組

- ・ 各対象施設に求められる前提条件も含めた見直しを行い、コストダウンを図る。

③ サービスレベル等の見直し方針の決定

- ・ 会場の設計、運営、費用（予算）に影響を与える、会場で提供されるサービスに関する見直し方針の決定。

会場整備コスト最適化の取組

【単価の精査】

- 主要オーバーレイ資材（テントや仮設観客席など）の単価について、国内外サプライヤーの見積を調査したところ、約2～3倍のバラつきが見られた。
- 過去大会の実績とも比較検討の上、国内外サプライヤーの見積の最低水準の単価を採用することとした。
- 上記により、主要オーバーレイ資材の単価を約2～4割削減した。

外部コンサルタントを活用したコスト縮減(CVE)の取組

外部コンサルタントによるコスト縮減提案

通常 Value Engineering

○計画・設計の見直し※

- ✓ 規模、形状、仕様グレード、構造、工法、設備など
の見直し
- ✓ 海外を含めた調達先の検討、リースの検討
- ✓ 見積りの精査



前提となる条件(Condition)の聖域無き見直し

○条件の見直し

- ✓ 仮設のレガシー化もしくは撤去や取り止め 等

○要件の緩和

- ✓ 観客席数縮減
- ✓ 照明要件緩和 等

※ 会場整備局および設計会社でも恒常的にコスト見直しを実施

会場整備コスト最適化の取組

【サービスレベルに関する方針】

1. これまでの取組

- ・単価の精査、諸室の共用、仕様の精査

2. 現状と課題

- ・現サービスレベルでの単価の見直しには限界
- ・IOCもサービスレベルの早期見直しを提言

会場整備コスト最適化の取組

3. これからの取組

- 予算枠内に収めることが最優先
- テント・プレハブ設置や既存諸室改修を可能な限り縮減することが重要
- 照明などIOC要件に踏み込んだサービスレベルの見直しも検討
- 必要最小レベルの案をたたき台として各FAに展開
- たたき台で、実施できない具体的な理由がある場合は別途調整

会場整備コスト最適化の取組

【今後の取組】

- 引き続き、大会経験のあるコストコンサルも活用し、全会場でCVEを実施する。
- 各 F A と連携して関係するステークホルダー（ I F、 O B S、施設所有者など）と交渉し、サービスレベル等の見直しにより更なるコスト削減を図っていく。
- 上記の取組により、適正な発注内容、価格を設定し、確実な契約締結につなげていく。